

I 研究主題及び副題

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学学習 ～体験的な活動を通して思考を深める指導～

小林市立三松小学校 教諭 池之上 優希

II 主題設定の理由

本学級の児童の実態から本主題を設定し、小社研の考え方をもとに、社会科の授業で体験的な学習を取り入れ、思考をより深める児童を育成することを目指した。




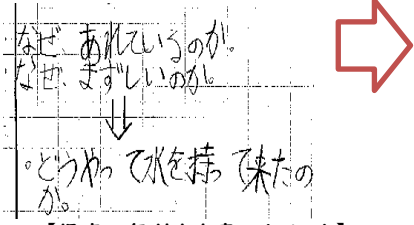
III 単元「きょう土を開く」における工夫

- 1 問いをもたせる工夫
- 2 思考を深める体験的活動の工夫
- 3 人々の願いや努力についてより深く考えさせる工夫

IV 授業の実際

1 問いをもたせる工夫

単元の導入の工夫として、現在の野尻地区の田園の様子と100年前の野尻地区のくらしの様子を比較させることで、問いをもたせ、学習問題を設定した。

現在の野尻地区の豊かな田園の様子 	比較	100年前の野尻地区の様子 	当時の野尻町の農作物 
 <p>【児童の気づきを書いたノート】</p>	学習問題 なぜ、野尻地区のあれた土地に水を引いて、田を広げることができたのだろう。	【調べる内容（児童の気づきから設定した調べる内容）】 <ul style="list-style-type: none">・ どこから水を引いたのか。 ・ どのように水を引いたのか。・ 誰が中心になって工事を行ったのか。 ・ どのような思いや願いで工事を行ったのか。	

2 思考を深める体験的な活動の工夫

(1) 興味・関心を高める活動の工夫

はじめに、外部講師がその当時の工事で実際に使用した「おの」「のこぎり」「もっこ」の3種類の道具の紹介を行った。それぞれの道具について講師が「何をするための道具かな？」と問うと「土を運ぶために使う」と興味津々に答えた。また、「のこぎり」の刃を実際に出して見せると、「おおー！！」と驚きの声をあげる児童が多数いた。この段階で、児童の興味・関心を高めることができたと考える。その後、3種類の道具を全て観察した。おのを持たせると「お！重い。」「意外と重い。」とつぶやく児童がいた。



(2) 体験的な活動から得た思考の深まり

体験的な活動を終わるとすぐに感想を記入する児童が多く、普段の学習よりも長く記述する児童が多数いた。実際に触れたことで、自分の想像以上のことに気づき、思考を深めることができた。道具が重いということから、「重い道具を持って工事を行った人々は大変な思いをしていた。」「当時の人々はずごい。」と、当時の人々の思いや願いに気付くなど、いつも以上に深く考えていた。

【児童の感想】 <ul style="list-style-type: none">・ 全部手作業ですとなると、昔の人々はとても大変だったことが分かった。・ 作業するとなると、1分間くらいでもへとへとになりそう。・ おのが思った以上に重かった。 ・ 不便だったのに、がんばった昔の人々はずごい。・ 女性も男性もみんなで協力して工事したんだな。・ 昔の人は全て手作業でやっていて、すごいなと思った。・ 実際に道具を見たらすごく大きくて、これで作業していたことはすごい。・ 実際に号具を持つとけっこう重い物もあって、田丸さんの思いが強かったことが分かった。・ 昔の人はあんなに重い物を使って17kmも作業していたことにびっくりした。
--

3 人々の願いや努力についてより深く考える工夫

発問や提示資料をもとに、個々に考えたことをグループや全体で話し合うことで、より深く考える場を設けた。



【気づきを伝え合う様子】



【他者と対話する様子】

(1) 発問の工夫

体験的な活動を通じた気づきを児童に発表させた際に、「大変」と発言する児童の意見を取り上げ、「どうして、大変な思いをしてまで、当時の人たちは工事を行ったんだろうね。」と発問した。このように、児童の気づきから切り返しの発問を行ったことで、体験的活動と結び付け、児童がより深く思考し、「生活を豊かにするため」、「地域の発展に貢献するため」などと考えることができた。

【児童の考え】

- ・生活を豊かにしたい。
- ・用水路を作っている田丸さんを応援したい。
- ・野尻町の人々を助きたい。
- ・みんなに、楽しく幸せに生活してほしい。
- ・地域の発展に貢献したい。
- ・より良い日常生活を送りたい。
- ・お米を食べたい。

(2) 資料提示の工夫

発問する際に、当時の人々が作業する様子の資料を提示するなどして視覚化したことで、当時の工事を想像しやすくなり、人々の願いや努力について深く考えさせることができた。

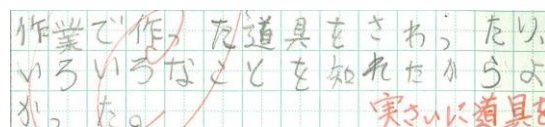
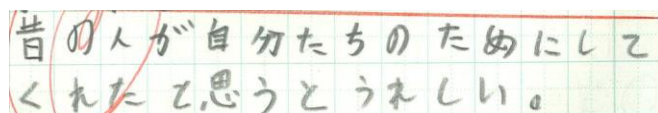


【当時の工事の様子を示す資料】

V 成果と課題

1 児童の振り返りから

多くの児童が体験的な活動の良さに気付くことができた。児童は実体験からの気づきが大きいことが分かった。また、自分達が住む地域のことを学習したことでより身近に感じることができ、当時の人々が子孫のことを考えて行ったことに喜びを感じることができた。



2 成果

- 体験的な活動を通して、資料の読取りだけでなく、実体験から考えをもち、当時の人々の願いや努力について深く理解することができた。
- 外部講師から話を聞くことで、地域の詳しい事柄について学び、興味・関心を高めることができた。
- 児童の気づきから切り返しの発問をしたことで、より深く考えさせることができた。
- 書くことが苦手な児童が積極的に感想を記入する姿が見られ、体験的な活動によって思考が深まったことを実感することができた。

3 課題

- タブレットを用いて思考させたため、思考の深まりが十分でない児童も見られた。今後、タブレットの効果的な指導方法や学びの充実について、研究していく必要がある。

VI 参考文献

- 学習指導要領解説（平成29年度告示）社会科編
- 文部科学省 中央教育審議会「令和の日本型学校教育の姿」